



学校だより

(10月号) 令和2年9月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・進んで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》目標に向かって、協力しよう

『自分で考え、行動する』

校長 河井 尚

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますが、神無月 (かんなづき) を間もなく迎えようという長月 (ながつき) 末にあって、朝夕の涼しさに少しずつ清々しい秋を感じられる季節になりました。



さて、表題の「自分で考え、行動する (人材になってほしい)」は、多くの企業が新入社員に期待するメッセージのひとつだそうです。

児童の皆さんは、これまでに自分で考え、判断し、行動した経験はどれくらいあるでしょうか。イソップの『ロバ売りの親子』の話にもあるように、私たちは、ともすると他人の意見に振り回されたり、集団や大勢の雰囲気流されたりしがちです。ときに、他人の言いなりになって行動し、うまくいかないとその人のせいにしたりもします。

次の話は、ある先輩から聞いた新入社員の例ですが、読んでみて皆さんはどう感じますか。

配属先に出社した初日、新入社員Kさんは、元気よく「おはようございます！」と挨拶しましたが、先輩たちは返事をしてくれませんでした。数日経ち、「おはようございます」だけではなく、「いってらっしゃい」「お帰りなさい」などの声掛けが少ない職場なのだと思うようになりました。たいていの人なら、「誰も返事をしてくれず、むなしいからやめよう」と思い、自分も挨拶をやめてしまいます。ところが、Kさんは、来る日も来る日も、「おはようございます」「お疲れ様でした」と元気に声を掛け続けました。「挨拶は社会人として基本の行為だ」と自分で考えたからです。

しばらくすると、先輩の一人が挨拶を返してくれました。その内徐々に返事してくれる人が増えていきました。数ヵ月後、Aさんの職場では、全員が挨拶を交し合うように変わったと言います。

集団の雰囲気を読んで輪に溶け込むことや周囲の意見を聞き入れることはとても大切です。しかし社会の中で生きている私たちだからこそ、自分で考え、自分自身で判断して行動することが大切なのだと思います。感情のおもむくままに行動すれば、ただのわがままで自己中心的な振る舞いになります。目的や相手、場、そして状況などを考え、自分は何を、どのように行動すればよいかを判断し、自己決定して実行できるのは人間だけです。

毎日の学校生活には、たくさんの考える機会があります。家庭でもそうです。

例えば、保健関係の検診のとき、皆さんはとても静かに順番を待つと思います。それは、①「先生に叱られるから」静かにするのですか？それとも②「検診のさまたげになると考えて」静かにするのですか？

皆さんのことですから②であろうと思います。

もし①だとしたら、叱られないのであれば騒ぐのでしょうか？「叱られる、叱られない」が判断基準だとすれば、時や場に合わせて自分で考え、判断していることにはなりません。今月も元気に過ごしましょう。

